

基準6 教育の成果

(1) 観点ごとの自己評価

観点6-1-1： 大学として、その目的に沿った形で、教養教育、専門教育等において、課程に応じて、学生が身に付ける学力、資質・能力や養成しようとする人材像等についての方針が明らかにされており、その達成状況を検証・評価するための適切な取組が行われているか。

【観点到る状況】

本学が養成しようとする人材像は、教育理念や中期目標・中期計画に明記し学生・教職員に周知している。

教養教育において学生が身に付ける学力、資質・能力や教養教育で養成しようとする人材像等についての方針（総合的な知識と根源的な視点から物事を主体的に思考し判断する能力の育成、基礎リテラシーの養成など）は「山形大学教養教育の基本方針」（別添資料6-1-1-①「山形大学教養教育の基本方針」参照）に明示し、学生及び全教職員に周知している。教養教育の方針の達成状況を検証・評価する取組については、履修状況調査、授業評価(改善)アンケート、在学生や卒業生へのアンケート調査などを組織的に実施し、その結果を分析するとともに報告書（別添資料6-1-1-②「教養教育改善充実特別事業報告書・ウェブサイト」参照）にまとめて改善を図っている。

専門教育については、山形大学2006年度総合案内、インターネットの学部のホームページやシラバスなどで、学部・学科ごとの概要、特色等の紹介をしており、養成しようとする人材像等についての方針を明らかにしている（別添資料6-1-1-③「山形大学2006年度総合案内」、別添資料6-1-1-④「学部・学科等・ウェブサイト」参照）。

具体的な教育課程の編成とその検証・評価は、各学部教務関係委員会と教授会において、進級、進学、就職状況の分析を通し行っている（別添資料6-1-1-⑤「専門学部への進級」、別添資料6-1-1-⑥「卒業・修了者就職状況表」参照）。

なお工学部は、国際的水準の教育を実践するために日本技術者教育認定機構(J.A.B.E.E)認定プログラムとして、教育4プログラムが認定（別添資料6-1-1-⑦「認定書等」参照）されており、他の学科や理学部、農学部においても、教育プログラムの認定に向けて準備中である。

【分析結果とその根拠理由】

学生が身に付ける学力、資質・能力及び養成しようとする人材像等は、中期目標・中期計画等に明示し学生・教職員に周知している。教育の成果、目的の達成状況等を検証・評価するための取組は、進級、進学、就職状況を詳細に分析することによって行っている。また、適宜学生へアンケート調査を行い、その結果を教育に反映させている。特に、① 学生の履修状況調査とその報告書の刊行(毎年)、② 授業改善アンケートの実施とその分析結果の公表(毎年)、③ 卒業生・在学生(平成14、17年度)、企業(平成17年度)に対するアンケート調査とその分析など、多面的に達成状況を検証・評価するための取組を行っている。各学部においても、専門分野における達成状況を検証・評価するための取組を同様に行っている。

以上のことから、大学及び各学部の教育方針は明示しており、その達成状況を検証・評価するため

の適切な取組が組織的に行われていると判断する。

観点6-1-2： 各学年や卒業（修了）時等において学生が身に付ける学力や資質・能力について、単位取得、進級、卒業（修了）の状況、資格取得の状況等から、あるいは卒業（学位）論文等の内容・水準から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

【観点に係る状況】

教養教育における、一般教育科目の平均取得単位数は平成16年度で27.5単位となっており、卒業要件である26単位を上回っている。また、教養教育全体の単位取得状況は資料6-1-2-1「教養教育全体の単位取得状況」のとおりであり、専門学部への進級率は96%以上となっている（別添資料6-1-1-⑤「専門学部への進級」参照）。

各学部における卒業（修了）の状況は、別添資料6-1-1-⑥「卒業・修了者就職状況表」のとおりである。また、卒業論文・修士論文の多くは、対応する学会等において発表され、在学中に学会の論文賞を受賞したり、特許を出願する学生もいる。

資格取得に関しては、医師国家試験合格率は最近3年間では、国公立大学通して平均10.6位と常に上位を占めている。また、看護師資格の取得率は医学部看護学科でほぼ100%である。

資料6-1-2-1 教養教育全体の単位取得状況

領 域 等	平成14年度	平成15年度	平成16年度
文 化 ・ 行 動	82.8%	84.8%	86.0%
政 経 ・ 社 会	76.9%	76.1%	79.2%
生 命 ・ 環 境	83.7%	83.8%	86.5%
数 理 ・ 物 質	86.8%	86.3%	85.0%
健康スポーツ・総合	88.7%	89.3%	91.8%
一 般 教 育 計	84.1%	84.5%	86.2%
外 国 語	91.6%	91.2%	91.9%
情 報 処 理	92.7%	90.9%	93.1%
日本語・日本事情	95.5%	100.0%	96.8%
合 計	86.1%	86.2%	87.7%

【分析結果とその根拠理由】

教養教育では、適切な履修選択を指導した結果、安易で無理な履修登録が減少し、平成16年度には一般教育科目の単位修得率が84%から86%へと改善されている。また、各学部においても、就職率は95%前後を維持しており、卒業論文・修士論文の多くは、対応する学会等において発表されていることから教育の成果や効果が上がっていると判断できる。

観点6-1-3： 学生の授業評価結果等から見て、大学が編成した教育課程を通じて、大学の意図する教育の効果があったと学生自身が判断しているか。

【観点に係る状況】

教養教育について、学生アンケートによる授業評価結果を平成17年度について集計したのが、別添資料6-1-3-①「学生と教員による授業改善アンケート」である。総合満足度の5段階評価の平均値を見ると、教養教育の全授業科目の平均は4.1であり、学生の満足度が高い水準となっている。

各学部における学生による授業評価結果の状況は、資料6-1-3-1「授業評価結果一覧」のとおりであり、各学部とも学生の満足度はおおむね高い。

資料6-1-3-1 授業評価結果一覧

区 分	評価結果の状況
人文学部	4以上の評価が70%（5段階評価）
地域教育文化学部	4以上の評価が75%（5段階評価）
理学部	4以上の評価が42%（5段階評価）
医学部	3以上の評価が90%（4段階評価）
工学部	4以上の評価が55%（5段階評価）
農学部	4以上の評価が54%（5段階評価）

【分析結果とその根拠理由】

教養教育及び全学部で、学生による授業評価を実施しており、いずれも学生の満足度はおおむね高いことから、本学が意図する教育効果があったと学生自身が判断している。

観点6-1-4： 教育の目的で意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果について定量的な面も含めて判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

【観点に係る状況】

各学部（大学院）の卒業（修了）・進学・就職状況は、別添資料6-1-1-⑥「卒業・就職状況一覧」のとおりであり、主な就職先は、別添資料6-1-4-①「就職先一覧」のとおりである。

平成17年度における学部卒業生の大学院進学率は27.6%であり、学部学生及び大学院学生の就職先は、地方公共団体、工学部の地元製造企業、農学部の食品関係企業など、それぞれの学部・研究科の専門性に関連した企業等を中心に選択している。

【分析結果とその根拠理由】

各学部の就職率や進学率を見ると概ね良好な数値を示している。大学院進学者は全体的に増加傾向にあるといえる。また、卒業・修了生には地方公共団体、地元企業等の専門的業務や管理部門における要職についている者も多数おり、本学が養成しようとする人材像については、卒業・修了後の進路状況等の実績などから教育の成果や効果が上がっていると判断する。

観点6-1-5： 卒業（修了）生や、就職先等の関係者から、卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取するなどの取組を実施しているか。また、その結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

【観点に係る状況】

本学では、外部の専門会社に委託して、平成16年度に卒業生及び企業に対する教育効果に関するアンケート調査を実施した。調査結果では、卒業（修了）生や就職先等の関係者から見て、本学の教育成果や効果は上がっているとの評価を得ている（別添資料6-1-5-①「山形大学に関するパーセプション把握調査・結果報告書等」参照）。このほか、教養教育や各学部の専門教育においても、独自に同様なアンケート調査を実施し、更に企業訪問の際に卒業・修了生の勤務状況や問題点などを聴取している。

【分析結果とその根拠理由】

上記アンケート調査結果から、本学の教育内容は、企業から卒業生の学力や資質・能力に関して優れているとの評価を得た。一方、社会に出てから役立つ外国語教育や情報処理教育について、全学的な取組を要するという示唆を得ている。これを受けて、役員会及び教育委員会を中心とした取組を行っている。

以上のとおり、卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関して、卒業・修了生や就職先等の関係者から聴取した結果から、教育の成果や効果が上がっていると判断する。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

教養教育は、クラス別の講義を主体として少人数教育のセミナーを組み合わせ、バランスのとれた授業形態をとっている。担当教員の熱意・授業方法の工夫などの点で学生から高い評価を得ており、教育効果の点でも優れた成果をあげている。

「山形大学に関するパーセプション把握調査・結果報告書」等学内外の関係者に実施したアンケート調査によれば本学における教育の成果及び効果は上がっていると判断できる。

医学部では、医師国家試験の合格率は最近3年間で上位を占めるようになった。また、他学部でも就職率が向上している。

【改善を要する点】

卒業生等のアンケート調査結果によれば外国語教育及び情報教育の内容が実践的でない点に不満が寄せられている。現在、教育委員会を中心に取組みとめつつある改善策の早期実施が望まれる。

(3) 基準6の自己評価の概要

大学において、学生が身に付けるべき学力・資質・能力及び養成しようとする人材像等に関する本学の方針は、山形大学2006年度総合案内、インターネットの各学部のホームページやシラバス、教養教育の基本方針などにより明示されている。さらに、学部・学科ごとの概要・特色等の紹介も学生及び教職員に広く周知されている。

また、教育方針の達成状況を検証・評価する取組みについては「履修状況調査」「授業改善アンケート」「在学生や卒業生へのアンケート調査」などを実施し、いずれも報告書にまとめている。

学年進級時及び卒業時における学力・資質・能力は、各学部の担当委員会と教授会によって審議し

ている。就職率は、いずれの学部も90%を超えている。

また、各種国家試験の合格率は上昇傾向にあり、特に平成18年施行の医師国家試験は全国18位、国立大学10位と高い。修士・博士論文の多くは学会などで発表され、学術誌にも掲載されている。

教養教育や各学部での「学生による教員の講義内容への評価」では、いずれも総合満足度は高いという結果が出ている。全学的に実施した「山形大学に関するパーセプション把握調査」や学部で実施した「卒業生に対するアンケート」でも同様の結果を得ていることから、大学の意図する教育効果があったと判断できる。一方、外国語による会話能力の向上については、教育課程の改善を求められている。

地方大学としての山形大学では、地域の活性化・振興・貢献なども求められている。卒業生のうち県内に職を求める者も少なくなく、この観点からも教育の成果が上がっていると判断できる。

卒業・修了生の学力や資質・能力については、就職先などから事情を聴取したり、学部の進路指導委員による企業訪問の際に、企業に在職する卒業生から聴取し評価を得てきている。

また、医師・看護師を含めた就職先は県内が最も多いため、様々な機会ですら直な評価を聞ける機会は多い。企業等からのアンケート調査結果を踏まえ、それらを総合すると、卒業生の評価は学力等に問題がなく、人物像として率直・真面目・努力を惜しまないなどのプラス面が多いと判断できる。一方、おとなしく積極性に欠ける傾向を指摘されている。プラス面も含めて東北人気質を反映したものである。

以上のことから、本学の教育の成果は十分上がっていると判断する。